

<p>(受理番号) 4-20</p>	<p>(受理年月日) 令和4年11月24日</p>
<p>件名 要旨</p>	<p style="text-align: center;">陳 情</p> <p>マイナンバーカードの健康保険証一体化計画に対し、中止を求める意見書の提出について</p> <p>今日本では、賃金が上がらず、年金は削減され、あらゆる物価の高騰で、私たち庶民は苦しんでいる。新型コロナの第8波も心配である。政府がまともな物価対策や経済対策、コロナ対策も打ち出さないことに多くの人々が不満や憤りを感じている。そんな中、政府が「スピード感」をもって突然打ち出したのが、現在の健康保険証を2024年秋に廃止し、マイナンバーカードと保険証を一体化する方針である。国会も民意も無視したこんな強権的なやり方は、安部元首相の国葬をいきなり閣議決定し、強行したことを思い出させる。</p> <p>これまで法律で、マイナンバーカードの取得は任意とされてきたものが、事実上取得の強制に変わる。マイナンバーカードの交付率は9月末時点で全人口の半分の49%。昨年10月に始まったマイナ保険証利用者は全人口の約2割しかいない。マイナポイントに2兆円以上も使う異常な方法をとってもカードが予定どおり普及しないのは、「利便性を感じない」「情報の流出が怖い」など政府への不信があるからではないか。これまで政府は「マイナンバーカードは持ち歩かないように」と言っていたはずだが、多くの人が常に持ち歩く健康保険証と一体化する、こんな危険な制度は絶対に許されない。</p> <p>また、マイナンバーカードを持たない選択をした人が、健康保険証の交付で不利益を被る可能性も考えられ、この制度には欠陥がある。</p> <p>さらには、まともな個人情報保護の仕組みや法律をつくらず、1枚のカードに個人情報をできるだけ集め、管理・利用し、さらにマイナンバーカードに銀行預金など個人の財産を紐付けることは、紛失の危険だけでなく、新たな犯罪を生み出しかねない危険なカードになりかねない。健康保険証廃止とマイナンバーカード一体化に多くの医療機関も反対し、中止を求める声が急速に広がっている。</p> <p>ついては、マイナンバーカードの健康保険証一体化計画に対し、中止を求める意見書を国に対し提出するよう陳情する。</p>
<p>部名</p>	<p>健康福祉部</p>